

大田萩枝関係文書目録

2024.5.31PDF 作成

広島大学文書館

解 題

広島大学文書館

助教 伊東 かおり

本件は、原爆投下時に救護活動を行った医師、大田萩枝氏の収集資料である。

大田氏は大正 10 (1921) 年 8 月 15 日、広島市の医師家庭に生まれた。昭和 17 (1942) 年に帝国女子医学薬学専門学校 (現在の東邦大学) を卒業したのち広島市に戻り、広島県立広島病院に眼科医として勤務していた。

昭和 20 年 8 月 6 日、23 歳のとき、爆心地から 2. 2 キロほどにあった牛田町 (東区牛田本町) の自宅庭で、出勤直前に被爆した。外傷はなかったものの嘔吐や頭痛に襲われながら、被爆直後から医師として救護活動を行い、避難した町内の早稲田神社で負傷者をみとった。爆心地から 900 メートルの水主町 (中区) にあった広島病院は全壊全焼したが、大田氏は病院関係者からの指示にもとづき、同月 10 日から県病院が医薬品を疎開していた古田国民学校 (現在の西区古田小学校) で、15 日から勸業銀行広島支店 (中区胡町) で、9 月途中から袋町国民学校 (現在の中区袋町小学校) に設けられた救護所で収容者の救護治療に当たった。この袋町国民学校での救護活動の様子は、文部省が編成した「原子爆弾災害調査研究特別委員会」の記録映画製作班に同行した写真家、菊池俊吉氏が撮影した写真にもとらえられている。

市内各所で治療を担ったのち、昭和 22 年秋に病院を退職。牛田町で眼科医院を開業し、身体中にだるやさ痛みを覚えながら診療を続けた。ノーベル平和賞を受けた IPPNW (核戦争防止国際医師会議) が平成元 (1989) 年に第 9 回世界大会を広島市で開催すると、大田氏は 10 月 7 日の開会式に被爆医師を代表してあいさつをおこない、76 か国から参加した医師たちの前で「(患者に) 病状の説明すらできなかった」と、救護所での苦い体験を証言し核廃絶を訴えた。75 歳で閉院したのは千葉に移り、平成 30 年 3 月 8 日に 96 歳で死去した。

本件は、平成 30 年 3 月に姪の藤嶋久子氏より寄贈を受けた。IPPNW 出席時のあいさつ原稿 (資料番号 1) をはじめとする関係資料のほか、医師会の会報や広島県医師会が編集・発行した医師らの被爆体験をまとめた書籍などが含まれている。ここに資料を公開し、多くの人々に活用されることを望むものである。

(参 考)

- ・「核戦争防止国際医師会議」世界大会が開幕—広島市『毎日新聞』平成元年 10 月 7 日付夕刊
- ・「[ひと] 第九回 IPPNW 世界大会開会式であいさつした被爆医師 大田萩枝さん」『毎日新聞』平成元年 10 月 8 日付朝刊
- ・「大田萩枝さん死去 96 歳 被爆医師 救護に奔走」『中国新聞』平成 30 年 4 月 2 日付朝刊
- ・「[ヒロシマの空白 証しを残す] 被爆医師の原稿・手記寄贈 大田萩枝さん 原爆投下当日から救護活動 40 点 広島大文書館へ」『中国新聞』令和 4 年 7 月 14 日付朝刊
- ・「[ヒロシマの空白 証しを残す 写された被爆者] 教室の救護所 苦悩たどる 1945 年 10 月 菊池俊吉さん撮影 大田萩枝さん「医者は私一人。死亡診断書ばかり書いた」」『中国新聞』令和 4 年 7 月 14 日付朝刊

凡 例

1. 本目録は、広島大学文書館に寄贈を受けた「大田萩枝文書」の目録である。
2. 原則として字体は「常用漢字表」中の字体を用いた。
3. 件名は表題、文書名を記し、原文書からそのまま抜き出した場合は「」書きで記し、採録者の判断でつけた場合は「」はない。
4. 年月日は和暦で統一した。資料の内容等から推測したものは（ ）書きで記した。
5. 作成者の項には、資料の作成者・受信者で判明するものを可能な限り採録した。発信者と受信者は矢印で結んだ。内容等から推測したものは（ ）書きで記した。
6. 形態・数量の項には用紙の大きさ（B4、A4、○×○cm等）、資料形態（冊子、ファイル、洋紙、和紙等）、数量を可能な限り採録した。

大田萩枝関係文書目録

資料番号	件名	作成者	作成年月日	形態・数量	備考
1	「IPPNW関係一式」			A4クリアブック1	
2	「牛田小学校PTA会報第105号」	広島市立牛田小学校会報	昭和58年12月15日	27×20cm冊子1、6頁	
3	「牛田ニュース第159号」	牛田ニュース事務局	平成6年7月31日	36×26cm洋紙2	同伴2部
4	「牛田ニュース第190号」	牛田ニュース事務局	平成9年2月28日	40×27cm洋紙1	
5	「牛田ニュース第165号」	牛田ニュース事務局	平成7年1月31日	36×51cm洋紙1	
6	「牛田ニュース第177号」	牛田ニュース事務局	平成8年1月31日	36×51cm洋紙1	
7	「牛田小学校PTA会報第106号」	広島市立牛田小学校会報	昭和59年3月15日	27×20cm冊子1、6頁	
8	「広島女医の会会だより3号」	広島女医の会	昭和56年4月20日	31×22cm冊子1、14頁	
9	「広島女医の会会だより7号」	広島女医の会	昭和58年5月1日	31×22cm冊子1、28頁	
10	「広島女医の会会だより8号」	広島女医の会	昭和58年11月8日	30×22cm冊子1、24頁	
11	「広島女医の会会だより10号」	広島女医の会	昭和59年11月10日	30×22cm冊子1、28頁	
12	「広島県医師会速報第1208号」	社団法人広島県医師会	昭和61年1月25日	27×19cm冊子1、40頁	
13	「広島県医師会速報第1361号」	社団法人広島県医師会	平成2年4月25日	27×19cm冊子1、30頁	付箋書込「IPPNW」
14	「広島県医師会速報第940号」	社団法人広島県医師会	昭和53年8月15日	27×19cm冊子1、22頁	
15	「広島県医師会速報第1206号」	社団法人広島県医師会	昭和61年1月5日	27×19cm冊子1、48頁	付箋書込「「傷痕」編集」
16	「広島県医師会速報第939号」	社団法人広島県医師会	昭和53年8月5日	27×19cm冊子1、36頁	付箋書込「Dr.ジュノー」
17	「菊池写真 当時の県病院與楽園」	菊池俊吉		写真3、35×25cmファイル1	写真1点に付箋書込「大田萩枝さん」
18	「原爆原稿」	大田萩枝	昭和54年6月22日	長形4号封筒1、B5洋紙6	
19	「中国新聞」	(中国新聞社)	昭和56年8月16日	新聞1	5・6・17・18面のみ
20	「中国新聞」	(中国新聞社)	平成7年2月12日	新聞1	11・12・19・20面のみ
21	「中国新聞」	(中国新聞社)	平成7年2月12日	新聞1	9・10・21・22面のみ
22-0	ドキュメントフォルダ「手紙」			B4ドキュメントフォルダ1	22-1～9止一括
22-1	書翰	猿橋勝子→大田萩枝	平成元年10月9日	B5便箋2、11×18cm新聞記事コピー1、長形4号封筒1	
22-2	書翰	赤旗徳永→大田萩枝		A4原稿用紙1	
22-3	書翰	横路謙次郎→大田萩枝	(平成元年)8月9日	葉書1	
22-4	書翰	吉岡兼治→大田萩枝	(平成元年7月13日)	葉書1	
22-5	書翰	横手綾子→大田萩枝	(昭和54年11月12日)	葉書1	
22-6	書翰	大田信五・洋子→大田萩枝	(平成元年10月11日)	葉書1	
22-7	書翰	菊楽肇→大田萩枝	平成元年8月17日	B5洋紙1、長形4号封筒1	
22-8	書翰	大田信五→大田萩枝	(平成元年8月4日)	葉書1	
22-9止	書翰	横路謙次郎→大田萩枝	(平成元年9月25日)	B5洋紙ホチキス留1、名刺6、長形3号封筒1	
23	「貴重書類(残分)」			長形3号封筒1、写真1、角形2号封筒1	封筒に付箋書込「医師会」
24	「東邦会ニュース第11号」	東邦大学医学部東邦会	昭和64年1月1日	40×28cm冊子1、16頁	
25	「東邦会ニュース第15号」	東邦大学医学部東邦会	平成2年1月15日	40×28cm冊子1、16頁	
26	メモ			16×13cm洋紙1	

大田萩枝関係文書目録

27	「アサヒグラフ 8月2日号」	朝日新聞社	昭和43年8月2日	34×26cm冊子1、104頁	表紙に付箋、小口破損
28	「菊池俊吉さんを偲んで」	永井修司、鈴木耕一、神田	平成3年2月	19×13cm冊子1、56頁	
29	「広島県眼科医会会報 第52号」	広島県眼科医会	昭和61年8月20日	26×18cm冊子1、80頁	付箋書込「大田萩枝さん寄稿」
30	「広島県眼科医会会報 第62号」	広島県眼科医会	平成3年8月20日	26×18cm冊子1、118頁	
31	「あかしや 1986 vol.16 舟入・市女同窓会誌」	広島市高等女学校・広島市立舟入高等学校同窓会	昭和61年6月25日	26×18cm冊子1、52頁	
32	「親が子に語る戦争と原爆の話(第一集) こどもの兵隊」	日本キリスト教団広島府中教会内平和教育文集編集委員会	昭和53年2月19日	26×19cm冊子1、29頁	表紙書込「贈呈」
33	「め」	広島県医師会	昭和57年12月20日	21×15cm冊子1、266頁	付箋2
34	「IPPNW 第9回核戦争防止国際医師会議世界大会「女医の記録」」	広島女医の会	平成2年3月10日	21×15cm冊子1、58頁	
35	「広島市医師会だより 8 No.280 IPPNW・原爆特集号」	社団法人広島市医師会	平成元年8月15日	26×18cm冊子1、82頁	15×21cm洋紙1挟込(会報編集部→大田萩枝、「原稿執筆のお礼とカラー版会報について」)
36	「ヒロシマ・ナガサキの証言'83 春・第6」	広島・長崎の証言の会	昭和58年5月15日	21×15cm冊子1、134頁	付箋、背表紙書込「横山昭正
37	「傷痕」	広島県医師会編	昭和51年3月15日	21×15cm冊子1、632頁	葉「傷痕 戦争体験記」
38	「傷痕Ⅱ－戦後40年」	広島県医師会編	昭和60年12月25日	21×15cm冊子1、446頁	
39	「傷痕Ⅲ－戦後50年誌－」	広島県医師会編	平成7年12月25日	21×15cm冊子1、92頁	
40止	「ヒロシマ医師のカルテ」	広島市医師会	平成元年7月20日	25×17cm冊子1、394頁	付箋2、小口とトビラに印「広島市東区牛田本町三丁目六番一七号 大田医院 医師大田萩枝」